

風のひろば

July
2023

vol.22

臨床看護学の強化について

基礎・成老年実習室の改修について

大学の今

新任教職員・退職教員のご紹介

トピックス

看護学実習を終えて

卒業生・修了生インタビュー

研究紹介



臨床看護学の強化について

成人看護学、老年看護学、NPの各研究室の創設

学長 村嶋 幸代

概要

本学では、2023（令和5）年4月から、成人看護学、老年看護学、NPの各研究室を創設しました。これにより、学部4年間をかけた看護師教育、更に、大学院修士課程における看護実践者教育、特に、ナースプラクティショナー（NP）の教育を強化する基盤ができました。

2023年3月までに行った基礎・成老の実習室改革・シミュレーション教育の強化と相まって、臨床看護の能力を二層向上させる基盤ができました。

○「成人看護学研究室」および「老年看護学研究室」の創設について

本学では、開学時から、成人看護学と老年看護学を一体的に運営し、一人の教授がカバーしてきました。しかし、この領域は、近年、目覚ましく発展してきました。高齢化も進むなど、社会も大きく変わってきました。看護教育は、社会や学問の変化に対応して進化すべきものであり、各々の専門性を追求できる体制構築が必要となりました。特に、本学は、2011年度から、学部教育を看護師の教育に絞っていますので、臨床看護の中核をなす成人看護学の教育水準を高

成を主に担いながら、NPの実践の開拓と評価を行う研究室が必要だと考えました。NPの制度化やエビデンスを作る研究活動、また実習施設や就職施設と連携してNP修了生を支援し、より良い活動を可能とするための環境整備も必要なことなどを考慮し、2023年度に、「NP研究室」を創設しました。

教員は、2023年度は看護アセスメント学の藤内教授が兼任し、講師と助手2名の計3名で発足しました。将来は、NPを配置したいと考えています。

基礎・成老年実習室の改修について

看護実践力修得支援小委員会リーダー
（基礎看護学研究室 准教授）
石丸 智子

2022（令和4）年4月入学生から新カリキュラムが施行されました。本学が新カリキュラムでめざしたものは、①学生の主体性を高める、②臨床判断能力の基盤を育成することです。

本学が目指す「主体性」とは、「自ら学び自ら考える力」であり、DX*を活用したグループ学習により、自ら学ぶ姿勢を身に付けることができると考えました。中でも看護技術は、対象に合った看護を適用できるように、対象を想定し、客観的に自分が行った看護技術を振り返りながら、実践・修正を繰り返すことで修得につながります。

また、臨地実習では対象者の病態や症

各々の研究室の役割は、下記のとおりです。

研究室名称	役割
成人看護学	成人看護学(急性期、慢性期を含む)を学問的に追求・構築し、実践研究を行う。
老年看護学	老年看護学を学問的に追求し、構築すると共に、高齢社会における実践研究を行う。
NP	NP教育の中核を担うと共に活動領域を開拓し、研究を推進する。

状、モニタリングの状況は様々で、学生は身体観察や心電図などでモニタリングされたデータなど、客観的情報を読み取り判断（＝臨床判断）する必要があります。臨床判断のプロセスを起動させるには、「気づき」がトリガーとなります。そのためには、対象者の状況をリアルに再現し、対象者をイメージさせることで、学生は対象者が身体から発するサインに「気づき」、臨床判断能力の育成につながると考えました。そこで、全体の構想は、2021年にタスクグループ（リーダー・廣田真里前基礎看護学教授）で構築し、文科省と県の地域医療介護総合確保基金を得て、基礎・成老年実習室の改修を行いました。

*DX（Digital Transformation）とはデジタル技術を用いて教育・ビジネス・生活を改善していくことです

1. 連動する実習室の実現

WEBを介さずに有線で映像や音声を実習室Ⅰ・Ⅱで共有できる設備（HDM I入力設備）と、新しいプロジェクター・スクリーンを設置しました。これにより、実習室Ⅰ・Ⅱを連動させ、教員の授業や学生のデモンストレーションをタイムラグなく同時視聴できるようになり、学生がストレスなく授業やデモンストレーションに集中できる環境となりました。



実習室Ⅰ・Ⅱで同時配信

2. 目的に合わせた空間利用

階段椅子を撤去し、代わりに机付きの椅子を各ベッドサイドに学生人数分設置しました。これにより、学生4〜5名が1つのベッドで技術を練習し、そのままベッドサイドでディスカッションするなど、技術練習をスムーズに実施できるようになりました。また、自分たちの看護技術を撮影し、映像を見ながら教員とデブリーフィング（学習の効果を高める振り返り）を行うこともできます。

各ベッドサイドにモニターを設置し、心電図などの医療機器の模擬画面を表示し、各種デバイスが接続できるようにアダプターも設置しました。これにより、学生は自分のパソコンやタブレットなどを介して、アプリから入手した心電図波形や教科書、自分たちで作成した資料、データ等をベッドサイドのモニターに自由に表示させるなど、私たちが想定していた使用方法を超えて、自由な発想で取り組んでいます。



実践の空間

検討する空間



心電図モニターの模擬画面

デモンストレーション中



俯瞰カメラ

手元操作と全体の動きを同時録画できます

手元カメラ

シミュレーション室



モニターの有効活用

自己学習ノートやスマートフォンで撮影した動画を共有する等学びやすい環境を学生自身で工夫しています。モニターを見ながらグループでディスカッションを行います

3. シミュレーション室の設置

シミュレーション室には「風のひろば vol.21」でご紹介した複数のビデオカメラと、そのデータを編集するための機器、配信するための機器、看護シナリオトレーニングのための高機能シミュレータが配置されています。壁で仕切り個室にしたことで、より病室に近い環境で実施できます。また、これらの機器の組み合わせにより、デモンストレーションの多角的な撮影を可能にし、学生全員が全体像と手元像を同時に視聴できるようになりました。他グループと自分たちの実践を比較し、一致や相違を批判的に考える思考の強化、さらに、技術力や患者への適応力の育成につながることを期待されます。その他、電動ベッドの追加、収納棚や自動水洗式洗面台の改修などを含め、学生が効果的かつ効率的に演習できるようになりました。また、様々な臨床場面を想定したシミュレーションが可能になるため、学部生に留まらず大学院生や現職の医療職を対象とした研修も可能になると考えています。今後も学生が楽しく主体的に学ぶことができる学習環境の工夫に努めていきたいと思えます。



シミュレーション室

大学機関別認証評価の結果について

国公立全ての大学、短期大学、高等専門学校は7年以内毎に、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関により第三者評価（認証評価）を受けることが学校教育法で義務づけられています。本学は、昨年、開学以来4回目となる認証評価を大学教育質保証・評価センター（以下、センター）で受審しました。各委員会等が分担して原稿を執筆し、自己点検・評価委員会と事務局が中心となってポートフォリオ等を編集し、5月末日にセンターに提出し、書面審査を受けました。現地調査は新型コロナウイルス感染症拡大のためZoomによる面接調査になり、設置団体である大分県、役員、教職員、在学生、卒業生・修了生、地域住民等が審査員からの質問に回答しました。

その結果、今年の3月に「学校教育法、大学設置基準をはじめとする関係法令に適合し、教育研究の水準の向上及び特色ある教育研究の進展に努めている。」という評価結果を頂きました。その中で、特に、日頃の自己点検・評価活動、予防的家庭訪問実習や健康科学実験、看護国際フォーラムや中小規模病院等看護管理者支援事業等が高く評価されました。今後もPDCAサイクルを回して持続的に教育・研究活動を改善して参ります。

看護師・保健師・助産師の

国家試験結果について

2023年（令和5年）3月24日に、看護師・保健師・助産師の国家試験の合格発表

表がありました。本学学生は、保健師国家試験および助産師国家試験では受験者全員が合格しましたが、看護師国家試験では受験者74名のうち2名が不合格という残念な結果となりました。

前回と同様に、今回も新型コロナウイルスに罹患すると受験が認められず、追試もないので、学生は感染しないように徹底した感染予防と体調管理を行って臨みました。看護師国家試験での例をあげれば、出発前の教員による検温などの体調チェックのあと、2台のバスに分かれて乗車して受験地（福岡市）に向かいました。学生の心がけもあり、受験にあたり発熱などの体調不良者は一人も生じることなく、全員が無事に受験できました。ただ、帰着直後には多くの学生が、出題傾向が異なっていた、難しかった、などの感想を述べており、実力を存分に発揮できなかった学生もいたようです。大学としても、来年に向けて様々な観点から対策に取り組んでいるところです。

なお、各国家試験結果の詳細は次のとおりです。

【第112回看護師国家試験】

本学合格率…97.3%

（合格者72名／受験者74名）

全国全体合格率…90.8%

全国新卒合格率…95.5%

【第109回保健師国家試験】

本学合格率…100%

（合格者4名／受験者4名）

全国全体合格率…93.7%

全国新卒合格率…96.8%

【第106回助産師国家試験】

本学合格率…100%

（合格者5名／受験者5名）

全国全体合格率…95.6%

全国新卒合格率…95.9%

博士号を6名が取得しました！

本学には、大学院修士課程（2年間）と博士課程（3年間）があります。2022年度は6名が博士号を取得し、開学以来32名となりました。修了生は、大学や研究所、医療施設等で活躍しています。今年度の博士論文のタイトルは、「看護学生のアタッシェメントスタイルと実習適応感との関連…個人特性の理解を実習場面で指導に活かすために」、「ヘアレスマウスを用いた組織反応から紐解く放射線皮膚炎の進行と回復におけるスキンケア効果の検証」他でした。

本学初代学長 草間朋子・名誉学長「第49回フ ローレンス・ナイチンゲール記章」を受章

本学の初代学長 草間朋子・名誉学長が放射線看護に関する活動や診療看護師（NP）の養成教育の功績が認められ「第49回フ



ローレンス・ナイチンゲール記章を受章されることになりました。草間先生は、大分県立看護科学大学で、日本で初めて、2008年から診療看護師（NP）の養成を開始され、全国で759名が診療看護師（NP）となっています。

フ ローレンス・ナイチンゲール記章とは：フ ローレンス・ナイチンゲール記章は看護師が受ける最高の名誉であり、ナイチンゲール女史の生誕100周年を記念して創設されました。2年に一度、顕著な功績のある世界各国の看護師を顕彰し、授与するものです。

Information [お知らせ]

「未来応援基金」ご寄附のお願い

「未来応援基金」は、大分県立看護科学大学創立20周年を契機に、学生の学業の継続や地域との連携、国際化・グローバル化への対応等、学生・大学院生の活動を支援するために設置された基金です。

確かな看護の力で地域の保健医療を牽引し、より良い社会を創造する看護職を育成するために、皆さまの温かいご支援を心からお願い申し上げます。

使 途

皆さまからいただいたご寄附は、学生・大学院生の支援のため、下記事業に活用させていただきます。

- (1) 学業の継続（奨学金の給付、授業料等の減免等）
- (2) 地域連携（地域貢献活動への支援、地域の保健医療機関での研修支援、自治体・地域・企業と連携した研究教育等）
- (3) 国際化・グローバル化への対応（短期留学、国内外での活動、研修派遣等）
- (4) その他、基金の目的達成に必要な学生・大学院生の活動支援

寄附金額

金額は特に定めておりませんが、1口1,000円として何口でも可能です。基金の趣旨にご賛同くださる方ならどなたでもご寄附いただけます。

ご寄附の方法

大学ホームページ(<http://www.oita-nhs.ac.jp>)掲載のフォームから申し込みいただくか、本学事務局まで電話にてご連絡をお願いします。

令和4年度寄附金額

個人・団体総合計 0円
※平成30年度～令和4年度までの累計額：3,861,000円
ご賛同いただいた皆様温かいお心遣いに感謝申し上げます。

お問い合わせ先

大分県立看護科学大学未来応援基金事務局
(大学事務局総務グループ内)
TEL：097-586-4300(代表) FAX：097-586-4370
E-mail：somu@oita-nhs.ac.jp

新任教職員のご紹介



成人看護学研究室 教授 古賀 雄二

今年度新設された成人看護学研究室を担当いたします。急性期を専門としていますが、回復期・慢性期・終末期をそれぞれ専門とする当研究室の先生方と協力し、「考える看護職」の育成を目指して研究室運営を行います。また、本学の特徴である予防的家庭訪問実習によって地域生活者への理解を深めている本学学生と、大分県の課題や地域特性をふまえた看護のあり方についても議論していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



成人看護学研究室 助教 岩下 恵子

4月から成人看護学研究室に着任いたしました。私は本学を卒業後、地元の総合病院での臨床経験を経て、本学大学院へ進学し、3月まで博士課程の院生として過ごしておりました。教員となり、演習やレポート添削など慣れない業務に慌たたいですが、学生さんの元気な姿に刺激され充実した毎日を過ごしています。学生さんと共に学び、教育者・研究者として成長できるよう精進して参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



理事 兼 事務局長 首藤 圭

4月に理事兼事務局長として着任しました。大分県に入職して33年目になりますが、これまでとは全く異なる職場環境に戸惑いながらも、校舎を囲む木々や後ろに控える山々、学生さん達や先生方、すべてが春の光を浴びて清々しく、眩しく見えています。私も早くその一部となれるよう、好奇心と向上心をもって職責に向き合っていこうと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



事務局財務グループ 主幹 小野 逸郎

5月15日付けの人事異動で県庁芸術文化スポーツ振興課から事務局財務グループに転任してまいりました。主に庁舎管理や経理の事務を担当します。微力ではありますが、皆様のお力になれるよう精進してまいります。どうぞご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。



事務局総務グループ 副主幹 吉野 美穂

5月15日付けで事務局総務グループに着任しました。教育研究審議会や研究倫理・安全委員会の事務等を担当しています。前職は県議会事務局で議会広報や新型コロナウイルス感染症対策特別委員会を担当していました。慣れない仕事に日々戸惑いながら過ごしていますが、事務方として皆さまを支える存在になれるよう、責任感を持って業務に取り組みたいと思います。



事務局教務学生グループ 主任 大東 直子

5月15日付けで事務局教務学生グループに着任しました大東(だいとう)と申します。前の職場である大分県高齢者福祉課で介護サービス事業所の施策に関する業務、その前の職場の大分県立大分工業高校の事務室では職員の人件費、衛生管理等の業務を行いました。教務学生グループは学生の皆さんとの関わりが多いため、皆さんが充実した大学生活を送るためのサポートを行えるよう精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

退職教員のご紹介

令和5年3月31日で退職された皆様です。大変お世話になりました。新天地でのご活躍を祈念いたします。

職名	氏名	職名	氏名
教授	Gerald T. Shirley	助教	宿利 優子
教授	廣田 真里	助教	矢野 杏子
学内講師	岩崎 香子		

メッセージご紹介

※定年退職されたShirley先生からメッセージをいただいています。



Gerald T. Shirley

I retired on March 31 after working here for 25 years. From April this year I will continue to teach my English classes. I also have a new job as our school's International Exchange Advisor. Over 25 years I taught many good students and worked with many great faculty and office colleagues. Thank you all very much! I have a lot of great memories. I wish you all continued health, happiness and success.

理事会新任理事及び経営審議会新任委員のご紹介

理事 首藤 圭 大分県立看護科学大学 事務局長
学外委員 小田 圭之介 大分合同新聞社 取締役

理事会退任理事及び経営審議会退任委員のご紹介

理事 岡田 浩明 大分県立看護科学大学 事務局長
学外委員 佐藤 政昭 大分合同新聞社 特別顧問

の皆様が唄をご披露下さるなど楽しいひと時となりました。



■第11回ホームカミングデイを開催しました

5月20日(土)に第11回ホームカミングデイを4年ぶりに大学で対面開催しました。大分県で就業している卒業生・修了生を中心に参加いただき、とても楽しい時間を過ごすことができました。



席しての開催となり、新入生の名前が一人ずつ読み上げられ、村嶋幸代学長より入学が許可されました。

入学式の後には、心配された雨も上がり、屋外にて集合写真を撮影しました。

■令和5年度予防的家庭訪問実習を開始しました

4月に入り、新しい1年次生を迎え訪問実習を開始しました。この日は、23チーム62名が訪問を行いました。今年度も訪問前には教職員による体調確認を行い、引き続き感染対策を講じながら実施して参ります。



■若葉祭を開催しました

第23回若葉祭を5月20日(土)21(日)に学生運営により開催しました。4年ぶりの大学祭でしたが、企画や模擬店で賑わいました。ステージイベントでは学生パフォーマンスの他、地域

■令和4年度卒業式・修了式

3月16日(木)に令和4年度卒業式・修了式を本学講堂にて執り行いました。学部生74名、大学院修士課程18名、大学院博士課程4名に卒業証書・学位記が授与されました。

卒業生・修了生の皆様のご活躍を、教職員一同、心よりお祈り申し上げます。



■令和5年度入学式



4月7日(金)に入学式を執り行いました。学部1年次生82名、大学院修士課程28名、大学院博士課程1名が入学しました。

今年は4年ぶりに、保護者の方も同

看護学実習を終えて

昨年度、1年次の基礎看護学実習では、実際に1人の患者さんを受け持たせていただきました。

実習が始まる前は授業で学んできた技術を生かすことができるのか、患者さんとコミュニケーションを取ることができるのかといった不安や緊張がとても大きかったです。また、患者さんとコミュニケーションを取るときに1つの話題から広げていくということがなかなかできず、質問攻めになってしまったと反省することもありました。

しかし、病棟実習は授業や演習では経験できない貴重な機会であると考え、自分から積極的にバイタルサイン測定や清拭、術後離床の歩行練習といったことを実際に行うことができました。特に歩行練習では患者さんの疲労感を確認し休憩を挟みながら行うことで、結果的には患者さんの意欲につながり「また後で歩こう、ありがとう」と言っていたことがとても嬉しく印象に残っています。実習を行う中で、患者さんが社会活動に復帰でき、入院前の生活に近くなる援助は何かを考えることが重要だと学びました。

12月には看護学実習が行われます。患者さんの健康状態をアセスメントし、その患者さんに必要な看護は何かを考えることができるように本実習の経験を生かしていきたいと思ひます。



2年次生 竹内 彩

看護学実習では、受け持ち患者さんとコミュニケーションをとる中で得られた情報を多様な面からアセスメントし、現在の看護問題を導いた上で必要な看護を計画・実施しました。その看護過程の中で、受け持ち患者さんの全体像を把握するための情報収集の大変さと限られた情報の中でアセスメントをし、個別性に配慮した看護計画を自身で立案することの難しさを感じました。その中でも特に心理面での情報収集において、病気の重症度からこの情報は聞いて良いのか、前を向いて治療に励もうとしているのに過去を思い出させてしまうのではないかなどを考えることができました。しかし、私たち学生が患者さんに対して、学ぼうとする姿勢を表現することで、受け持ち患者さんも学生が頑張っているから何か学びとして自分のことを伝えたいという気持ちを表現してくださるようになり、徐々に心理面のデリケートな部分を患者さんから伝えてくださるようになったことがとても嬉しく思いました。臨地実習では学内演習などでは体験できない患者さんの生の反応を見ることができ、日々のケアを行う中で患者さんとの関係性が徐々に縮まっていくことを実感することができました。9月からは専門領域の実習が始まります。その実習ではさらに患者の個性という部分に焦点をあて、その患者さんに見合った看護計画とケアの実施・評価ができるよう日々、学習をしていきたいと思ひます。



3年次生 明石 楓香



医療法人 河村クリニック
訪問看護ステーション ひこばら
森 友莉佳
(2016年度卒)

私は、平成28年度に本学を卒業し、現在は看護師として心療内科にて地域で暮らす方々の心と身体の健康に携わる仕事をさせていただいています。

当クリニックでは、外来診察だけでなく社会復帰を目指したり安心安全に過ごすことができる居場所としてのデイケア、生活の場で医療を提供する訪問看護も行っています。治療は、薬物療法だけではなく心理療法もあります。医療行為は他の科と比較すると少なく、コミュニケーションが主になり当クリニックでは特に対話を大切にしています。対話をしていくなかでも、自分の状態などを言葉にすることが困難な方や治療に積極的ではない方もいます。患者さんのペースに合わせたり、安心して話せる環境を整え、患者さんとの信頼関係を少しずつ築いていきながら、身体的・精神的・社会的に観察することで抱えているものを和らいでいくことができるのではないかと思います。

患者さんと関わっていくなか、訪問看護では困り事が視覚的に

も分かることがあります。服薬管理、食生活、部屋の環境、近隣住民との関係などです。医療を提供する際、『普通』といわれることを軸に考えるのではなく、その人が『大切にしていきたいこと』を軸にしながらケアすることも意識しています。ケア時には、自分の心と身体に起きていることへの理解を深めたり対処法を一緒に考えていきます。必要に応じて、行政機関や福祉サービスとも連携し、安心安全な環境を整えていくこともあります。また、新型コロナウイルス発生後は、普段と異なる環境に戸惑う方も多くいたと思います。患者さんと一緒に悩んだり新しい発見も共有し、ともにコロナ禍を過ごしていった印象です。

心療内科では、精神疾患に関する知識だけではなく身体疾患の知識も必要とされる場面も多くあり、看護師としての経験が浅い中でも勤務することができているのは、当クリニックの支援だけではなく本学で学んだことが基盤となり臨床の場で活かすことができているからだと思います。

心療内科での勤務では、感情や思考を共有することも多く一人一人との出会いの中で、自分自身も学んだり感じたり考えさせられることばかりです。様々な経験が自分の人生をも豊かにさせてくれると感じており、これからも精進していきたいです。

Research introduction



研究紹介

自殺対策におけるゲートキーパー養成研修の効果とその持続性について

日本では、毎年約2万人の人が自殺で亡くなっています。自殺をした人の約9割が自殺を行う直前にうつ病など何らかの精神疾患に罹患していたことや、自殺の要因が精神保健上の問題以外に、過労、生活困窮、育児や介護疲れ、いじめや孤立など様々であることから、自殺は個人の問題ではなく、予防することのできる社会的な問題とされています。このような自殺を予防するために、自殺対策におけるゲートキーパー (gatekeeper: GK) と呼ばれる人々を養成することが世界的に重要視されています。

GKとは、自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応(悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る)ができる人のことです(厚生労働省Webサイトより)。海外では、1990年代からGKの養成が行われており、日本では2007年から、GKの養成がはじまりました。しかし、1990年代からGKを養成している海外に比べ、日本では、研修効果の評価方法などが曖昧であり、何をもって研修効果があったとするのか、その効果がどのくらい続くかなどが不明確なままです。研修をより効果的に行い、自殺対策を発展させるためには、研修効果や、その持続性を確認することが必須です。

そこで、GK養成研修を受講した人の自殺に対する考え方や、自殺に関する知識、自殺の危険が高い人への

の対応の自信、自殺の危険が高い人への対応能力が研修によってどのように変化し、それがどのくらい続いたかを調査しました。その結果、自殺に対する考え方や自殺の危険が高い人への対応の自信については、研修後に望ましい変化が認められ、その変化が半年後まで続き、自殺の危険が高い人への対応能力は、研修終了直後よりも、三か月後や半年後に向上する可能性があることが分かりました。一方で、自殺に関する知識は、研修による変化が認められませんが、ただし、今回の調査では対象者が少なく、全員男性と対象者に偏りがあったため、今後はこれらを踏まえ、より詳しい調査を行う必要があります。

自殺対策におけるGKを根拠に基づいた研修によって養成し、自殺の危険が高い人(悩みを抱える人)に気づき、適切な対応を行うことができれば、日本の自殺対策にとって有意義なだけでなく、誰もが暮らしやすい社会の構築に繋がると信じ、今後もGK養成研修に関する研究を続けていきます。



精神看護学研究室 助教
後藤 成人

大分県立看護科学大学後援会からご挨拶

後援会長から学生みなさんに
応援メッセージをいただきましたのでご紹介いたします。



大分県立看護科学大学後援会
会長 幸野 正彦

令和という新しい時代を迎え、はや5年目となりましたが、新年度にあたり一言ご挨拶申し上げます。

学生の皆さんのみならず、保護者や大学関係者の皆様におかれましては、これまで3年以上に及ぶ長い間、コロナ禍による制約の中でお互いを支えあい、困難に立ち向かってこられたことと思います。しかし、いよいよ我々の生活は、これまでの苦勞を乗り越え、新たなフェーズにさしかかったものと実感しています。

学生の皆さんにとっては、看護学を学ぶにあたり、期せずして示唆に富んだ経験を得られたのかもしれませんが。看護科学大学は、世界と交流し、地域と共に歩む大学です。互いの存在を大切に、ともに協働することで、あらゆる壁を乗り越えられることでしょう。学生生活においては、さらに自己克服の力や柔軟性を培い、その力を存分に発揮し、自信を持って前に進んでいただきたいと思ます。

また、常にコロナ禍の下にあった学生の皆さんには、この新たな環境の学生生活が始まるにあたり、希望とエネルギーに満ちた心で、より精力的、より創造的に学生生活を謳歌していただきたいと思ます。

後援会としましても、皆さんが有意義な学生生活を送り、将来の夢に向けて大学を巣立っていくことを切に望みながら、精一杯支援していきたいと思ます。

最後に、関係各位の皆様のご多幸をお祈り申し上げまして、ご挨拶とさせていただきます。

看護ひとくち メモ



食中毒

梅雨の時期は、暑かったり、少し肌寒いと感じたり、体調管理が難しいですね。じめじめと湿度も高く、食品の管理にも気を使わなければなりません。特にこの時期に注意をいただきたいのは、『食中毒』です。食中毒の原因となるのは、細菌、ウイルス、寄生虫、キノコ(毒きのこ)やフグに含まれる自然毒、化学物質など様々です。これらの中で食中毒の原因としてもっとも多いのは細菌とウイルスです。細菌としてはウエルシュ菌とサルモネラ菌、ウイルスとしてはノロウイルスとカンピロバクターが挙げられます。ノロウイルスによる食中毒は2枚貝などを口にする事で発生し、鍋などを摂取する機会が多い冬場の集団感染が多いです。これからの時期に特に注意したいのは、カンピロバクターやウエルシュ菌です。カンピロバクターは、鳥などの消化管に存在し、人体に入ると食中毒を引き起こします。例として、鶏肉を切った後のまな板や包丁がしっかりと洗浄されていない状態でサラダ用野菜を切って食べる。また、肉類によく火が通っていない状態で料理を食べる。カンピロバクターは、低温に強いので食用肉を冷蔵庫に入れているからといっても安心はできません。しっかりと火を通してください。ウエルシュ菌による食中毒は、別名「給食病」といわれ、作り置きのカレーや煮込み料理などが原因で発生します。ウエルシュ菌は、通常の加熱処理では死滅しない状態になることがあるので、調理後は早めに食べきり、保存する際は速やかに粗熱を取って冷蔵庫に保存しましょう。

食中毒予防の3原則は、原因菌を“**つけない**”“**ふやさない**”“**やっつける**”ことです。調理前や食事前の手洗いと手指消毒、調理器具の衛生管理、調理済みの食品はすぐに食べる、冷蔵庫の温度管理(冷蔵庫は10度以下、冷凍庫は-15度以下)を徹底してください。

コロナも怖いけど、
私たちも怖いよ〜!!



看科大 [22号] クイズ・プレゼント

問題 令和5年5月20日、21日に第23回〇〇祭を開催しました。

〇の中に正しい文字を入れ、下記のとおりハガキでご応募いただくか、クイズの答えなど1~5までを記載して、メール(koho@oita-nhs.ac.jp)でご応募ください。正解者の中から抽選で3名様に**図書カード(2,000円分)**をプレゼントします。

郵便はがき 8701201 大分県立看護科学大学 事務局 行	大分市大字廻栖野2944-9 9
1. クイズの答え 2. 郵便番号 3. 住所 4. 氏名(年齢) 5. 記事へのご感想や 本学へのご意見	

【締め切り】令和5年8月31日 当日消印有効
当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

Schedule [スケジュール]

7月	12日(水)	第2回看護職キャリアガイダンス(3年次生)
	15日(土)	オープンキャンパス
	17日(月)~21日(金)	韓国ウルサン大学との学生交流プログラム 学生受入
7月	19日(水)	大学院特別選抜試験(広域看護学・助産学・NP)
	7月16日(日)~9月2日(土)	1・2年次生 夏期休業
	7月21日(金)~9月5日(火)	3・4年次生 夏期休業
8月	21日(月)~25日(金)	韓国ウルサン大学との学生交流プログラム 学生派遣
	23日(水)	大学院入学試験
	28日(月)	大学院研究中間報告会
9月	29日(火)	大学院研究計画報告会、論文レビュー報告会
	4日(月)~11月24日(金)	老年・成人看護学実習I・II、小児・母性・精神看護学実習
	23日(土)	公開講座
10月	28日(土)	第25回看護国際フォーラム
11月	25日(土)	学校推薦型選抜試験、社会人選抜試験
12月	1日(金)、4日(月)	卒業研究発表会
	5日(火)~18日(月)	看護アセスメント学実習
	12月24日(日)~1月7日(日)	冬期休業

※スケジュールは、変更になる場合があります。

